

対応が急がれるガバナンスと リスクマネジメントの監査

～業務監査では足りない組織運営の監査の方向と実務展開

「内部監査実務マスター・コース」〔第8回開催分（全9会合）〕

- 日時 ● 2019年4月4日（木）14:00～17:00
- 会場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

20年近く会計監査に従事した大手監査法人では監査アプローチの研修・普及活動や公認会計士協会本部の活動（国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員他）にも専念。続く10余年は、内部監査、内部統制、リスクマネジメント、不正調査等に特化し、アンダーセン消滅後はPwC（中央青山監査法人）で活動した後、J-SOXの制度化を前に復帰した新日本監査法人（E&Y）で内部統制支援本部統括部長、ビジネスリスクサービズ部長、FIDS（不正対策・係争サポート）部長等を歴任し、2012年、シニアパートナーを早期退任して、ボルボ・グループで日本の内部監査統括および同グループ会社UDトラックス㈱の監査役に就任。現在も監査役業務の他に藤井範彰公認会計士事務所として監査や不正関連の講演や研修及び執筆活動を続けている。最近の著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」（同文館出版2016年）で2017年度日本内部監査協会青木賞受賞。他にも著書「内部監査の課題解決法20」税務経理協会2012年、論文「内部監査のアシュアランスの本質論」日本内部監査協会月刊監査研究2018年7月号、「内部監査報告書の本質論と実務対応」同2017年5月号等多数。

●プログラム●

■講義／ 対応が急がれるガバナンスとリスクマネジメントの監査 <14:00-16:30>

子会社や部門の組織活動の監査では意思決定構造など業務コントロールとは違った観点やアプローチが必要となります。また業務監査中心の収益部門の監査とは異なり、本社の間接部門の監査でも業務プロセスとは異なる組織的な視点が重要です。これらの場合に重要となるのが、ガバナンスやリスクマネジメントの監査です。IIAの内部監査の定義でも、組織のガバナンスやリスクマネジメントは、コントロールと並んで重要な監査領域とされています。ですが、多くの企業ではその監査アプローチは未開拓のままです。しかし、昨今の大手企業の大不正事件はJ-SOXの実効性にも疑問を投げかけており、この領域の監査方法の整備は、内部監査の付加価値を底上げするという以上に、内部監査部門の責任として急務と考えられます。ガバナンスとリスクマネジメントはもとより経営的なインパクトが大きいだけでなく、昨今、企業風土への監査対応など不正や不祥事対策という点から注目されています。しかし準拠性監査の延長線上のような方法からうまく脱皮できていない企業もあるようです。

今回は、子会社や事業部門あるいは本社機能の監査においてガバナンスやリスクマネジメントをどのように捉えて監査するか、その現実的な対応の方法についてわかりやすく解説します。

1. リスクマネジメントの視点から切り出す監査アプローチ
2. ガバナンス志向経営監査の着眼点と展開方法
3. 統制環境と組織風土に対する監査対応

■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント <16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

〔本体価格 29,000円 本体価格 32,000円〕

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認ください。<http://www.bri.or.jp>

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者ご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951

180188	2019 4/4 内部監査実務マスター・コース		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			